



## 平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F  
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>  
e-mail : [koe@siminnokai.com](mailto:koe@siminnokai.com)

### 平和ネット 野党統一候補を全力応援へ



JR小倉駅前「市民と野党の共闘」の重要性を訴える平和ネットメンバー

平和ネットの19日定例行動は、先の総会で決定されたように、市民と野党の共闘を進め、衆議院選挙9区・10区において、野党統一候補を決めること、決められた統一候補を全力で応援するという趣旨から、小倉駅と黒崎駅の2か所で18時より毎月19日定例集会をしています。8月19日の定例集会を紹介します。

小倉駅には30名が参加しました。立憲民主党の城井崇さんからは、集会に向けてのメッセージが寄せられ、読み上げられました。日本共産党の田村貴昭さんは、主催者からの連絡ミスで参加が見送られました。11区の社民党予定候補、日本共産党市議2名、市職労OB、原爆被害者の会、憲法改悪反対北九州共同センターなどの参加者から次々に発言がありました。圧巻は、通行中の市民が、「俺に訴えさせてくれ」と言ってマイクを握り、菅政権のコロナ対策の無策・無能を糾弾、「皆さんがんばってください」「政治を変えましょう」と熱い思いを述べてくださいました。

真島・緒方前衆議院議員が街頭演説

黒崎駅にも30名が参加。まじま省三さんと緒方林太郎さんがすばらしい演説でアピールしました。今回は、緒方林太郎さんの話の内容を紹介します。

今日の夕刻は「平和をあきらめない北九州ネット」さんの主催による街頭演説会でした。私からは以下のような話をしました。

- コロナ対策には、厳に「科学」に基づく政策が必要。昨年3月、習近平国家主席の国賓訪日があるまで中国からの入国制限をしなかった頃くらいから雲行きが怪しくなっていた。
- 「科学」とは関係ない事を優先すると、辻褄が合わなくなるのでどうしても国民の頭に「？」が付く。政治と国民とのコミュニケーションが損なわれる時、政治のメッセージが受け入れられなくなる。それは怖い事。
- 今のコロナ対策を更に強化するには（国会を開いた上での）法改正が必要な事がある。現在、国会を開かないのは「国会を開くと攻め立てられて総選挙にマイナス」といった考慮があるように感じる。今のコロナ対策には「（法改正せず）既存の仕組みの中だけでやる」という見えない制約が課せられている。これはコロナ対策の観点から良くない。
- 財政については、まずは所得再分配の観点から税の累進性をしっかり取り戻したい。今の仕組みでは、所得額が1億円を超えるくらいの所から高所得者の実行所得税率がどんどん下がって行く。これでは公平性の観点から理解が得られない。
- 外交について、アフガニスタンでの出来事はあの国では外国軍駐留による永続的な安定が困難である事を示した。これは歴史に学ばば自



JR黒崎駅前訴える緒方さん

明。今後は「(メシが) 食べる」ようになる支援をする事で、武器を手にした、ケシ栽培をしたりするようなアフガン人を減らす事が課題。これは中村哲さんがやってきた事。今こそ、中村さんの理念を日本の対アフガン外交の軸として据えるべき。そんな話でした。

(緒方さんFBから)

### 小学校の通学路を安全チェック

「北九州市の公共施設を良くする会」は8月19日、日本共産党市議団とともに市内8つの小学校通学路の安全チェックを行いました。下校途中の小学生が死傷した千葉県八街市でのトラック事故をうけ、これまでの「学校ウォッチング」に代わり、今回の取り組みとなったものです。

『通学路チェック』には、新婦人、福建労、地区労連、年金者組合、民商、市議団などから48人が参加。一つひとつの通学路をチェックし、「歩道に大きな穴が空いていた。これはチェックね」「学校を表す『文』の字が消えかかっている」「通学路を示すグリーンベルトがない」などの声が次々と上がりました。「良くする会」は、通学路チェックをまとめ、市の教育委員会と懇談し、改善を求めることにしています。

通学路は、児童生徒40人以上が通行する道路及び学校より1<sup>km</sup>以内の区域で、児童生徒の安全を確保する必要がある道路が目安です。

「良くする会」は、子どもたちの快適な教育環境と施設周辺の安全安心な環境の実現を目指し、市に要望を届けてきた団体で、これまでに159の小・中学校を訪問してきました。



通学路での危険箇所をチェックするメンバー

### 区域区分見直し問題で意見交換

北九州市民の会主催で9月4日午前、「市街化区域から市街化調整区域への見直し」に関する意見交換会が小倉北区で開催され、各区で活動する住民や市議会議員など約40人が参加し、各地区での活動報告や運動のあり方など活発な議論がおこなわれました。



議論が尽きなかった意見交換会

昨年以來大問題となっているのは、北九州市が「災害に強くコンパクトなまちづくりをめざして」と称して、「市街化区域」を「市街化調整区域」へ変更すると発表し、強制的な移住計画を示したことです。まず山坂に多くの住宅がある八幡東区での見直し方針を示し、2021年からは全区での説明会も計画されています。

市は当初の説明で、見直し地域(市街化調整区域)は「長い時間をかけて緩やかに無居住化していく」としていましたが、対象地域の住民から「資産が価値がさがった」「補償はあるのか」など反対意見が相次いだこともあってか、今年3月の説明会資料では「市街化調整区域に見直された後も、現在の居住者は現状のまま居住を継続することは可能であり、住み替えを積極的に促進するものではありません」とトーンダウンしています。市に出された、対象区域の権利者の意見のうち6割が「市街化区域を維持してほしい」で、市は2019年基本方針の中で、「地域の合意形成が図れない場合は、市街化区域を維持」と明記しています。

意見交換会では「なぜ自治総連合が住民の財産権を侵害する逆線引きに加担するのか、訴訟になれば自治会も訴えられる可能性もあることを知らせないといけない」「(災害対策を理由に)市街化調整区域見直しという手法を使うべきではない。市はお金を使わずに(住民移住を)やろうとしている」など多くの意見があり、市方針の見直し、撤回も求めることを確認しました。

### 第22回 北九州平和ネット 定例会

8月31日(火)、上記定例会が第1法律事務所をホストにzoomで開催されました。参加者は10名。以下のような決定がなされました。

- ①9月19日(日)も小倉駅前と黒崎駅前野党統一をアピールする集会を持つ。17:00~18:00(時間注意)
- ②市民連合作成の共闘パンフ300冊を各地区に配る。
- ③市民連合の声明文「野党共闘で菅政権を変え、一命と人間の尊厳を守ろう」について、平和ネットとして支持することを決定した。
- ④次回の定例会:9月14日(火)18時00分、第1法律事務所をホストにzoom会議

市民連合と4野党が共通政策で合意 命守る新政権を樹立しよう！



総選挙で勝利し、新しい政治を実現しようと決意を固めあう (左から) 社民・福島、共産・志位、立民・枝野、れいわ・山本の各氏=8日、参院議員会館

日本共産党、立憲民主党、社民党、れいわ新選組の野党4党と「安部法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」は8日、次の総選挙で自公政権を倒し、命を守る新しい政権の実現をめざす野党共通政策に合意しました。共産党の志位和夫委員長、立民の枝野幸男代表、社民の福島瑞穂党首、れいわの山本太郎代表が共通政策の提言書に署名しました。

総選挙で野党各党が野党第1党を含めて共通政策を結び、政権交代を目ざす初めての闘いとなります。

野党共通政策の提言 (骨子) 衆議院総選挙における野党共通政策の提言

一 命を守るために政治の転換を

- 1、憲法に基づく政治の回復
2、科学的知見に基づく 新型コロナウイルス対策の強化
3、格差と貧困を是正する
4、地球環境を守るエネルギー転換と 地域分散型経済システムへの移行
5、ジェンダー視点に基づいた 自由で公平な社会の実現
6、権力の私物化を許さず、 公平で透明な行政を実現する

いのちをまもる緊急行動 全労連などが呼びかけ

9月5日(日)、全労連などの呼びかけで、「医療・介護・保健所の削減を止めて!いのちをまもる緊急行動」が全国各地で取り込まれました。北九州でも北九州地区労連、健和会労組、北九州社保協、公益財団法人健和会などが実行委員会を作りコロナ禍のなか40人を超える参加があり大きな成功を勝ち取ることが出来ました。



小倉駅前を訴える 各界代表者の皆さん

緊急行動は小倉駅ペDESTリアンデッキ周辺で取り込まれ、健和会労組安達委員長の司会で、永富地区労連議長、健和会労組の理学療法士、公益財団法人健和会の代表、年金者組合代表、長崎クリニック院長のメッセージ、北九州市で働く保健婦から寄せられた現状を訴えるメッセージなどが次々に紹介されました。

また、この行動に政党から日本共産党の荒川市議、大石市議、出口市議、永井市議が参加しました。荒川議員が日本共産党を代表して国政・市政の問題点などを報告しました。いのちをまもる国会請願署名台も設置され、小倉駅を利用する多くの市民が署名にこたえてくれました。約1時間の行動でしたが、参加者全員暑さに負けず頑張りぬきました。

(堀田和夫FBより)

第62回 福岡県母親大会

オンラインでつなぎ、大成功



スムーズに進んだ、初めてのオンライン大会

9月12日(日)、第62回福岡県母親大会が開催され、ウエルとばたをメイン会場にして、県下206か所をオンラインでむすび、600名の参加で大成功を収めました。

基調講演は、上西充子教授(法政大学)による「政治を変えるために、私たちに出来る不断の努力とは!」講演は、3論点についてスライドを使用してのわかりやすく「なっとく!」のお話でした。

- ① なぜ政治は私たちに遠く感じられるのか
② 野党はだらしない?野党は反対ばかり?
③ 私たちにできること

大会は、軍事拡大を許さず、平和で安全な福岡県・日本を求める特別決議と大会宣言を満場の拍手で採択しました。

最後に運動交流として、6団体の素晴らしい活動報告が動画で紹介されました。

第41回 福岡県自治体フォーラム 10/24(日) オンライン・ZOOM開催へ!

開会 13時、閉会 16時
コロナ禍・コロナ対策、お見舞い申し上げます。西大が、コロナ禍で滞りなくなり、ZOOMを利用しての3ヶ所・5会場に分かれてのオンラインで開催します。ただしオンライン上の定員は100名です。インターネットで、早めにお申し込みください。なお各会場ともこれにインターネット未利用の方を中心に、若干名の会場への直接参加も、研究所事務局で受け付けます。なお記念講演のみは、研究所のホームページからYouTubeでもお伝えします。詳細は今後、所報やホームページ (http://jitken.jimdo.com) でもお知らせします

主催者挨拶(情勢解説もかねて) 石川捷治・代表理事(九大名誉教授)

記念講演 「明治からの女性解放運動...伊藤野枝を中心として」 スライドも使用
矢野寛治・映画評論家
会場・A.福岡県自治体問題研究所
1948年大分県中津生まれ、元博報堂コピーライター、書評家、著書「普通のコピーライター」(共著)、「なりきり映画考」、「印像少年」、「反戦映画からの声-あの時代に反らないために」、「伊藤野枝と代筆」(第27回地方出版文化功労奨励賞受賞)

分科名 講師・報告者 会場
① コロナ禍と自治体・公行政のあり方 会場・B.福岡県労連(自治労連)
② コロナ禍でのデジタル庁の発足から見えるもの・懸念(県労連副議長)
③ コロナ禍の今、進む公行政の空洞化・羽田野盛仁(研究所事務局次長)
\*福岡市議会の発言もご相談しています。

④ 災害とまちづくり 会場・B.福岡県労連(自治労連)
⑤ 「20年の大分県水害と今後の課題」・東原敬幸(大分県中津市・防災危機管理室副室長)
⑥ 「17年九州北部豪雨・朝倉からの報告」・片井亮美(新建築家技術者集団・福岡支部)
⑦ 「21年熱海・土石流問題を考える」・多賀直恒(九大名誉教授)

⑧ 歴史認識問題と戦争責任
⑨ 「西ドイツの戦後処理に学ぶ」・星乃浩
⑩ 「なぜ福岡に平和資料館か」・堀田和夫

⑪ 今日の中国問題をどう見るか
⑫ 「中国の覇権主義的行動の背景と現在」

⑬ 特別講演・過去の映画作品から考える 講師・矢野寛治(映画評論家)・取り上げレマン「居酒屋」・豊田四郎「雁」・溝口健

<参加費> テキスト代として、1000円を会員同封して全会員に配布。(このテキストを見ながら行う) 会員外申込者には参加費として1000円を別途お申し込みください。
<会場住所・電話> 記念講演と9:50分科1-19-3 博多駅前ビル508、②分科会・福岡(ビル201)、④分科会・日中文化センター・09<追記> コロナ禍の軒余曲折も今後予想されま

<オンライン参加登録>
お名前
参加申し込み分科番号
送金先 ①郵便振替口座 01780-7
②福岡銀行・博多駅前支店 18022

北九社保協通信

報告・資料集 2021年8月号 8月31日 事務局発行

「コロナ電話相談会(第9回)」

政府のコロナ対策と感染急拡大に寄せられる不満と不安

今回も10時から20時まで対応

9回目となる「コロナ対策を乗り越える」なんでも電話相談会を8月21日(土)に実施しました。前回から20時までの延長対応でしたが、17時以降も相談電話が殺到したこともあり、今回も20時まで延長して相談を受けました。

残念ながら当日は地元マスコミ取材はありませんでしたが、全国放送のTVニュースやラジオ、SNSでこの相談会を知った方からの相談電話が相次ぎました。やはり17時以降も電話が鳴りやまず20時終了時点で32件の相談をうけました。

専門家の協力あつての電話相談会
この相談会は昨年の4月から継続して取り組んでいますがこれも毎回、社保協加盟団体の各専門家に相談員として参加協力して頂いているおかげです。弁護士、司法書士、MSW、労組、民間、生体など当初より多岐に渡る相談を想定して体制をとってまいりましたが毎回、多くの方々に協力いただき本当に心強い限りです。

感染対策にも万全を期して
コロナ禍の中での相談会ということもあって、相談者の防疫には気を付けています。三密を避けることは勿論、検温と消毒や換気、万が一の緊急連絡先シートなどこの場所から感染者が出たら二度と相談会が実施できない位のつもりで対策を講じています。そんな中、窓は開けるため夏は暑く冬は寒いという過酷な条件下でも真摯に相談にのる皆さんには頭が下がります。

借金ではなく「給付支援を求める困難者」
今回の相談が多かったのが借入の方では「この間、支援金や社保協の貸付で何とか生活してきたが、もう限界。借金がなくなるので追加借入は出来ない。受給できる給付金はないか?」事業者からは「持続化給付金や家賃支援金も受けた。貸付も借り切った。これ以上、借金は



電話、相談員として協力頂いている社保協加盟団体の皆さん

無理。新たな給付制度を紹介してほしい。」といったこれ以上の負債を抱えることへの不安な相談が引き続きありました。社保協の貸付にしましてもいづれ償還が始まります。その時に条件を満たせば返済猶予や免除もありますが、全員が該当するわけではありません。国や自治体は早急に追加の給付支援を実施すべきです。

感染急拡大でワクチン接種の相談も
もう一つ特徴的だったのが、第5波の影響で感染爆発が起こり、ワクチン接種を自粛していた方々が不安になっていることです。「接種したいが特殊な疾患があり副作用の心配もあるため主治医に相談するもはっきりしない」また「医療従事者。勤務先でワクチン接種を強要される。アナフィラキシーの経験があるため断るも何度も要請される」といった相談もありました。菅総理は「コロナ感染対策が再優先」と言っていますが、これ以上の感染拡大を食い止めるためには言葉だけではなく目に見える本気の対策を講じてほしいものです。

9/21(火)は生活保護110番
無料電話相談 10時~17時
093-562-3966
093-562-3967